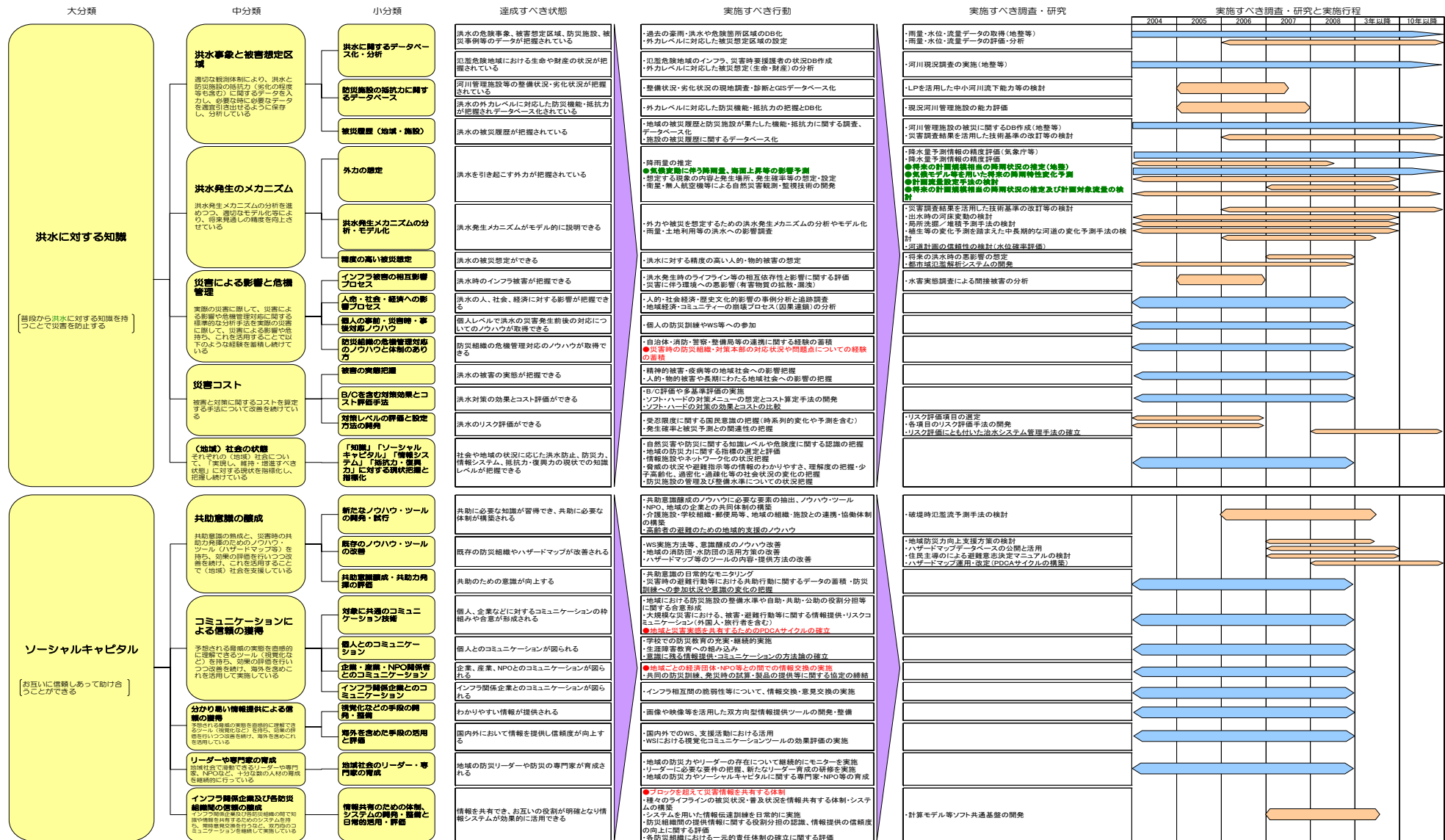


国土交通省技術基本計画とりまとめ(案)説明資料

【参考資料】

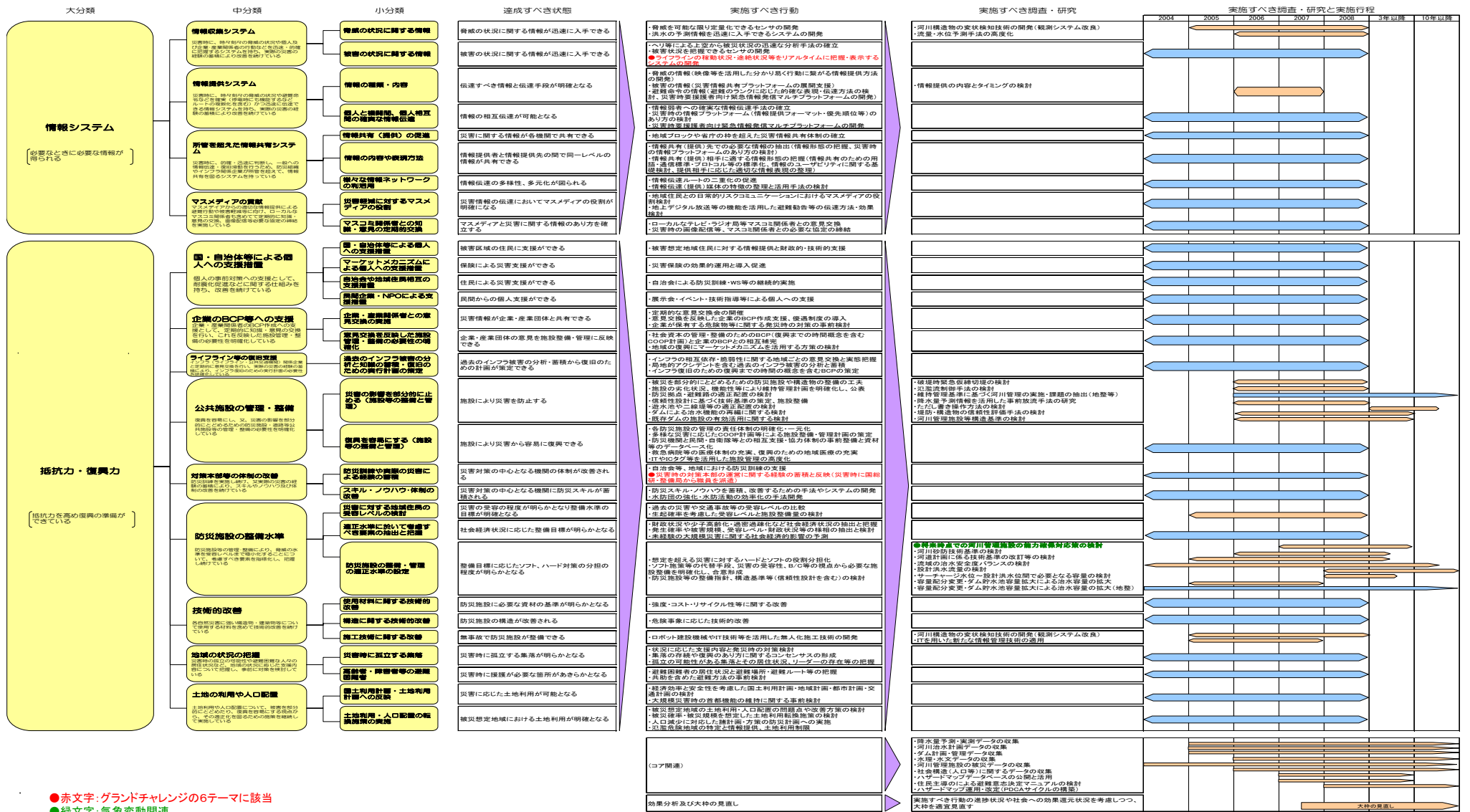
技術ロードマップの例 (国土技術政策総合研究所資料より)

技術ロードマップ・・・自然災害に対する安全・安心 (洪水 1/2)



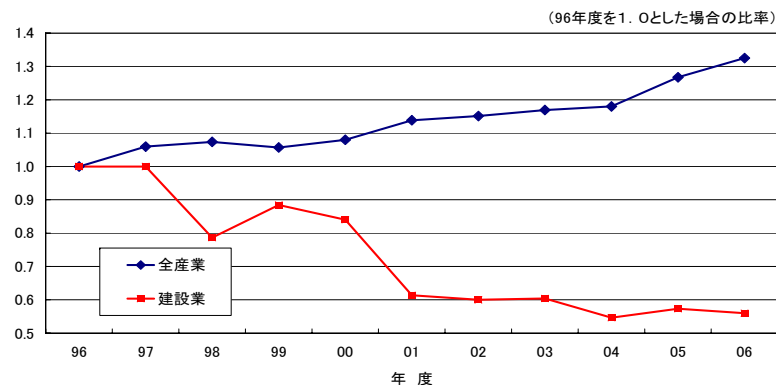
技術ロードマップの例 (国土技術政策総合研究所資料より)

「大枠」・・・自然災害に対する安全・安心 (洪水 2/2)

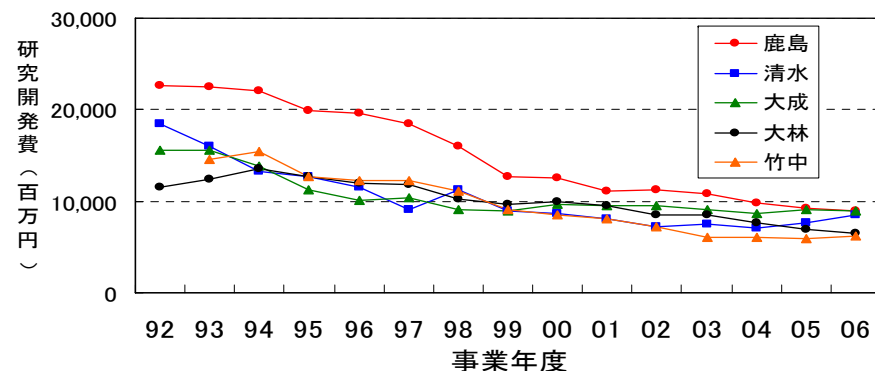


技術研究開発費の推移及び省庁別割合

大手建設会社の研究開発費の推移



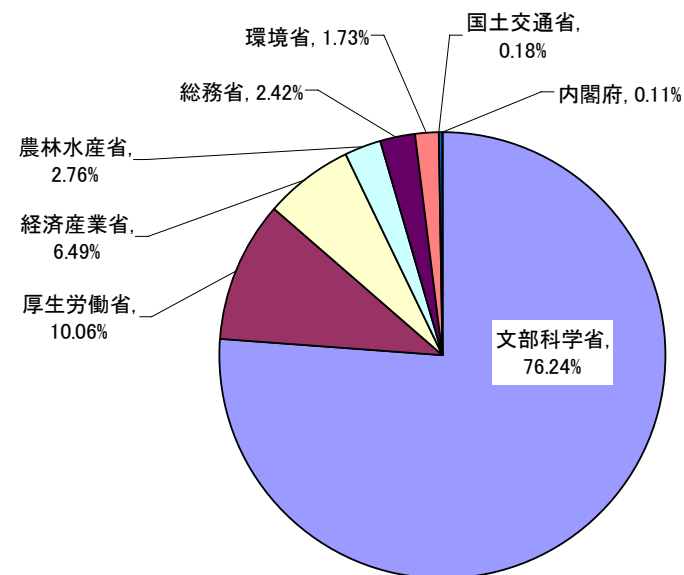
総務省統計局「科学技術研究調査」結果より作成。



土木学会建設マネジメント委員会、「建設マネジメントシンポジウム」(平成19年10月18日)より作成。

研究開発費の民間企業平均が増加傾向にあるのと比較し、建設業では減少年々減少している。

省庁別競争的資金の割合(H18年度)

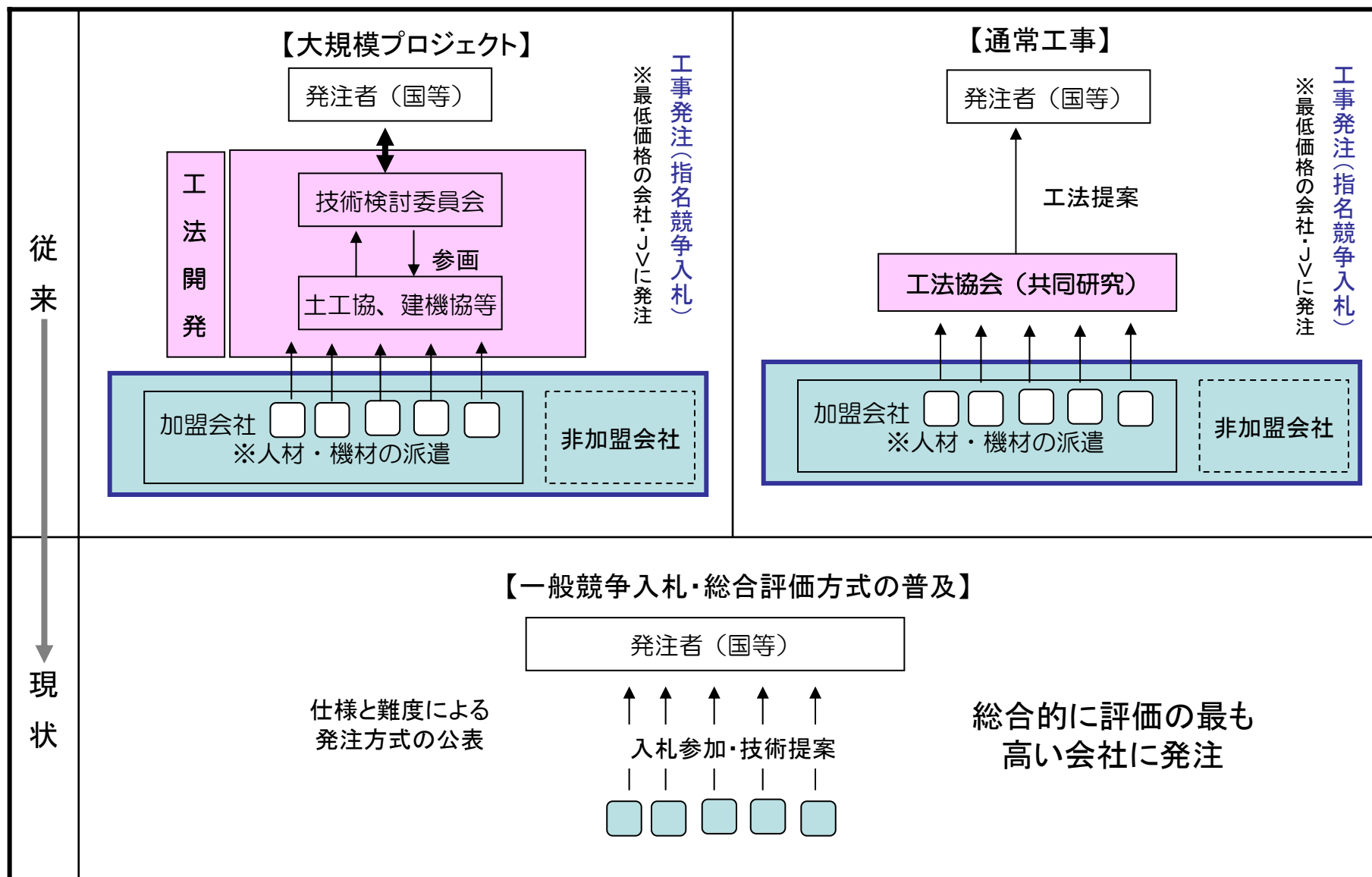


科学技術白書 (平成19年版)より作成。

国土交通省の競争的資金は全体から見て非常に少ない。

国土交通省は技術開発に対する財政面での支援を積極的に行い、技術研究開発を促進させる必要がある。

技術研究開発の変貌



競争的資金制度の強化の例

【建設技術研究開発助成制度の強化】

【H20年度内示額】 500百万円

【H19年度予算額】 400百万円

【目的】

建設分野の技術革新を推進するため、国土交通省の所掌する建設技術の高度化及び国際競争力強化並びに国土交通省が実施する研究開発の一層の推進等に資する技術研究開発について、広く提案を公募し、優秀な提案に助成することで、社会的な重要課題を効率的、効果的に解決し、研究成果を国民のくらしに還元する。

◆テーマ設定型研究開発公募の新設

- ・推進研究テーマ設定によるイノベーション推進にむけた
研究開発助成制度の強化を実施し、『テーマ設定型研究開発公募』を新設。
- ・実用化まで一貫した研究開発思想によりイノベーションを実現。
- ・2～3年後の実用化を念頭においた、民間主体の研究開発体制により研究を実施。

①基礎研究

○実用化を目指した『長期的視点』による技術開発(概ね10年後を目標とする)

○建設以外の他分野を含めた広範な学際領域との連携を積極的に図る、実社会での波及効果の大きい研究開発課題に対する公募を行う競争的資金

②実用化研究

○実用化を目指した『中期的視点』による技術開発(概ね5年後を目標)

○地域のニーズ等に応じた実用化段階の技術研究開発のテーマについて、地域の産学官連携等による研究開発課題に対する競争的資金

○実社会への適応性を大幅に向上させるもの。フィールドでの実証段階にいたったもの

③テーマ設定型研究

○実用化を目指した『短期的視点』による技術開発(概ね2～3年後を目標)

○国土交通省(官)が設定した具体的な推進テーマ(政策課題)に対し、研究者の独創的で自由な発想と現場の声を反映させた融合型開発

○産学官テーマ推進委員会を設置し、推進プロセスを強化

公共工事等における新技術活用システム

民間事業者等により開発された有用な新技術を公共工事等において積極的に活用・評価し、技術開発を促進していくためのシステム。

公共工事等における新技術活用システム

(※平成20年1月現在)

